



# こもれび

KOMOREBI

MIYAGI UNIVERSITY OF EDUCATION LIBRARY NEWS

No.122

2012.7.20 発行

## 特集 図書館ボランティア MUES



タイトル「セカイ。」

山中 麻里奈 美術サークル 2年

私たちの周りにあるたくさんの本を同じくらいたくさんある色に例えて表現しました。  
この世界に存在する本たちに一冊でも多く出会えたらいいと思います。

### CONTENTS

02 図書館ボランティア MUES

04 **NEW** 歴史のなかの教科書

06 図書館インフォメーション

08 学生の読書室

10 私と本

12 **NEW** 図書館の裏話 ○寄贈図書一覧 ○図書館Topics

### 誌面リニューアルのご挨拶

附属図書館長 渡邊 徹



「宮教図書館ニュース」から現在の「こもれび」になったのは2002年。それでも依然として「図書館の情報発信誌は硬くて官報みたい」という印象が私にはある。できるだけ多くの人に読んでもらう工夫、誌面リニューアルはそのための努力の一步である。

## MUE'S Story

図書館  
キャラクターの  
MUE (ムエ)です。



MUE (ムエ)は、  
オスの子猫。  
メロンパンが大好物!!



やんちゃで、  
いたずら好き。  
ちょっと、ツンデレ。



# 図書館 ボランティア!!

## ? 図書館ボランティアって?? MUESって、なに??

### ■ みんなの図書館、創ってください。

図書館では、図書館ボランティア:MUESを組織し、平成24年3月から4名のメンバーで活動を始めました。4月に入り、1年生も含め、さらに4名のメンバーが加わり、現在、8名で活動しています。



MUESは、ただのボランティア=単なる労働力提供のボランティア、ではありません。 **図書館のプレーン** です。

### ■ なまえは?

宮教大図書館ボランティア=ミューズ (MUES)  
名前の由来は、宮教大 (MUE) の図書館 (MUE図)、MUE'sボランティア などです。 **図書館にとって女神の様な存在 (男子も可)**、または、宮教大の女神たち (男子も可) を募集し、現在8名の女神が活躍中です。

### ■ こんなふうに、考えました。

- 個々に図書館に興味を持つ学生が集まり、みんなで図書館について考えて、より深く関わる事により、**図書館への理解、興味関心を深める**こと(その周辺学生への波及効果)。
- 学生のみなさんの **意見を図書館運営に反映**し、図書館ファンや図書館リピーターを増やすこと。
- **単なる労働力の補完としてのボランティアではなく**、金銭では測れない自発的な学生の力(発想力、企画力、影響力等)を借りて、日常的に学生のみなさんへの図書館利用促進を行うこと。
- この活動を通して、参加学生のみなさんに企画力、行動力、調整力といった **社会に出てからも役立つ能力を磨いてもらう**こと。

図書館ボランティア:MUESは、このような目的で組織されました。

### ■ つかってください。

学生の皆さんの使いやすい、“つかえる図書館”にしてください。また、この活動自体を使ってもらいたいと考えています。例えば、仲間作りの機会として、面接の時の話のタネとして生かしてください。全ては、今から。話せる体験をしてください。話のタネを **ここから作ってください**。

女神になりたい方、活動に参加したい方、ぜひ、図書館カウンターへ。

# MUES



## ■ おもな活動内容!

理想の図書館に  
近づけよう!

### 【 活動内容 】

- 図書館サービスや運営に関する改善提言
- 図書館キャッチフレーズの制定
- 配架等の図書館整備作業と選書
- 図書館利用促進イベントの企画・運営
- 図書館の広報活動 など

### 【 活動時間 】

月に一回程度のミーティングの  
ほか、活動内容に応じて、随時、  
ボランティアを行っています。

## ■ 活動紹介 (これまでにやったこと)!

- 図書館キャッチフレーズ“Live rally -本で広がる心のやりとり-”を作りました。
- ボランティアの発案で“イチオシ作家コーナー”を作りました。
- ボランティアの発案でツイッターでの図書館情報の発信を始めました。オススメの本の紹介なども始めています。  
[https://twitter.com/#!/MUES\\_muelibrary](https://twitter.com/#!/MUES_muelibrary)
- 図書館の蔵書を知るために配架整備を行いました。
- 選書作業も行っています。



## ■ 活動予定 (これからやること)!

- 平成24年度図書館教養講座の一環として、ロビーコンサートを企画しています。ぜひ、いらしてください。
- 平成24年度図書館教養講座の一環として、目次読書法ワークショップを企画しています。ぜひ、ご参加ください。

## ■ これからの図書館!

今年度も10月から読書ポイント制度を行う予定です。**読書ポイント制度とは?**  
これは返却冊数をポイント化し、ポイントに応じて景品を差し上げるというお得な企画です。さらに、ハロウィンなどの季節行事の企画も温めています。  
これからも、ぜひ、図書館に足を運んでください。

### ボランティアの方からの一言

もともと図書館が好きで図書館ボランティアを始めました。ツイッターで広報するために本をよく読むようになりました。

### 教員からの期待

図書館は試験やレポートの時しか用がないところって思っていないですか? そんな皆さんこそ、図書館ボランティアをしてみませんか。イマドキの学生が読みたい本や興味がある企画を考えてみましょう。図書館が今よりもずっと居心地のいい場所になること間違いなしです。

国際理解教育研究センター准教授 高橋亜紀子

案外、純粹。  
泣いちゃうことも、  
あるさ。



愛を感じる  
こともある。



読書に  
あこがれもある。



! 今後も図書館  
ボランティアMUESに、  
ご期待ください。

シリーズ  
第1回

## 社会

# 寺子屋と往来物

社会科教育講座 堀田 幸義

就学年齢に達した子どもたちの誰しもが学校に通い、教育を受けることが当たり前の世の中に生きている私たちにとって、識字能力は何ら特別な能力だと感じないかもしれませんが、日本社会において一般民衆まで広範に文字教育が普及したのは江戸時代も後期になってからであり、全国各地で寺子屋数の増加という現象が見られるようになります。幕末から明治初期に日本を訪れた外国人たちは、しばしば日本人の識字率の高さに驚き、日本における文字文化の広がり感に感銘を受けたとされています。

寺子屋(手習い塾)は18世紀後半から19世紀にかけて急増することがわかっており、それは、村や町を取り巻く社会状況が刻々と変化する中で、自らの生活を守るため、あるいは、自分たちの村の成り立ちを維持していくためにも、将来を担う子どもたちに読み書きや計算の能力を身につけさせることが必要不可欠だと人々が強く認識するようになった結果でもありました。寺院や庄屋・町人による寺子屋は私的に開設されたプライベートな教育組織ですが、村がその開設と維持にかかわる場合もあり、村役人の経営による寺子屋では経済的な報酬は期待せず村人への奉仕としてなされていたという指摘もあります。

こうした開設や維持に関わる問題以外にも、寺子屋教育と近代以降の学校教育とは違いがみられます。例えば、寺子屋での教育対象は7~15歳未満の子どもたちでしたが、入退塾の年齢は一律ではなく、筆子を指導する師匠は一人ひとりの置かれた状況(家庭環境、能力など)に合った個別のカリキュラムを組み、個々別々のテキストを使った個別指導を行っていました。また、筆子たちも

バラバラな向きに並ぶ机で個別学習を行っており、地域に即した往来物や身分・職業に応じた往来物をテキストに使用していました。

往来物とは、もともとは手紙の往復一対をいくつも集録し手紙文を学習するためのテキストとして編集されたものでしたが、書簡形態以外のものも作られ、現在までに総数7000種以上が確認されています。各地域に固有の往来物が存在していることから、寺子屋の師匠が自らの地域と子どもたちに相応しい独自の往来物を著していたとも言われています。地域に即した往来物は当地の地理・歴史や風俗などを覚える教材として活用され、身分や職業に応じた往来物には、百姓の子弟が学ぶ『百姓往来』、商家の子弟が学ぶ『商売往来』などがありました。また、女子の場合は『女大学』や『女中庸』など女性としての心得を説いたテキストが使われ、嫁および妻としての心得を学ぼう指導されました。このように、筆子たちは、「いろは」や数字・漢字・日用文章などの基礎学習を終えた後は、各種の往来物を用いたバラエティーに富む学習を行っていたのです。

### 【参考文献】

- 大藤 修 『近世村人のライフサイクル』(山川出版社、2003年)  
辻本 雅史 『3章 文字社会の成立と出版メディア』  
(辻本ほか編『新体系日本史16 教育社会史』山川出版社、2002年)  
八鉦 友広 『5章 近世民衆の人間形成と文化』  
(『新体系日本史16』) など

以下に載せたのは本学附属図書館所蔵の往来物です。  
代表的なものだけですが、解説も付しましたので、御覧下さい。



## 1 『新版 百姓往来全』

浪華禿箒子撰・再訂、伊勢屋半右衛門(仙台)刊、嘉永元年(1848)

百姓に関する往来物。「凡、百姓之取扱文字」で書き始め、農作業に必要な道具、新田開発の方法や水損・旱損の手当、肥料の種類、稲作の手順、年貢を納める手順、助郷役のことなどについて記載され、平生は幕府や代官を敬うことや分相応の生活をすべきことなど、百姓の心得についても説かれている。



## 2 『商売往来全』

伊勢屋半右衛門(仙台)刊、文化10年(1813)再版

商人に関する往来物。「凡、商売持扱文字」で書き始め、商業活動を行う上で必要な文字、貨幣名、扱う商品などが列挙されており、続いて「商売家輩、從幼稚之時、先手跡・算術之執行、可為肝要者也」として商人生活の心得について述べられている。



## 3 『女大学宝箱全』

貝原篤信著

女子教訓に関する往来物。近世中期以降、最もよく読まれた女子教訓書。徹底した封建道徳を説いており、当時の女性観を如実に表している。冒頭にも「一、夫、女子ハ成長して他人の家へ行、男・姑に仕るものなれば、男子よりも、親の教、緩がせにすべからず」とある。



## 4 『奥道中歌』

池田屋源蔵(仙台)刊、文政4年(1821)

仙台・国分町～北海道・松前に至るまでの道中に関する往来物。「国分の町よりここえ七北田よ、富谷茶のんて、あちは吉岡、さむひとて焚へきものは三本木、雪の古川、荒谷つめたや…」と続いており、道中にある47箇所の駅名が歌に読み込まれている。頭書に国分町から松前までの道法および道中風景図も掲げられている。



## 5 『増補 塩竈詣』

伊勢屋半右衛門(仙台)刊、文政8年(1825)

仙台～塩釜に至るまでの道中に関する往来物。前半では宮城野・安養寺・東照宮・原の町・榴が岡以下、鹽竈神社までの道筋と名所について書き連ね、後半は同社の由来・祭神・靈験や塩釜の美景などを順々に紹介している。頭書に「隅田川往来」などを収める。



## 6 『頭書 竹駒詣全』

伊勢屋半右衛門(仙台)刊、文政5年(1822)

仙台～竹駒神社に至るまでの道中に関する往来物。「這回、御心願之儀被為有、竹駒参詣思召立候に付、御案内傍御供可申旨、致承知候…」で始まる手紙文の体裁で、仙台から竹駒神社までの名所旧跡・神社仏閣、同社の景趣・縁起などを記している。

【参考文献】 石川松太郎監修 / 小泉吉永編著 『往来物解題辞典 解題編』(大空社、2001年)など

### 見上学長によるランチタイムセッション

5月1日、図書館で、見上学長ランチタイムセッションを開催しました。

これは、「ドクシヨノススメ☆プロジェクト」の一環として企画された図書館教養講座～み☆る き☆く 作☆る～の第一回目となります。

「若き日の図書との出会い」と題して、幼い頃のことから順を追って話されました。

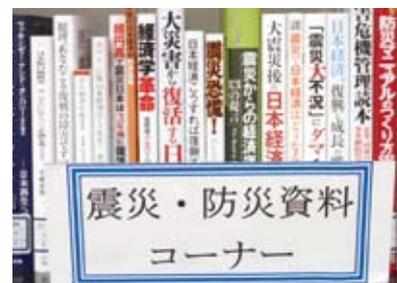
人生で最初に買った本が顕微鏡に関する本だったこと、高校時代には、物理学者の「本多光太郎伝」を読み、深く感銘を受け、(人生を決めた一人!)その後、「生物学序説」、「原生動物」そして、訳書「科学者になるために」と様々な本と出会い、人との出会いもつながっていき、生物学者を志したことを自身の蔵書を提示しながら話されました。

一人の人間が、まるで一筋の道をたどるかのよう、専門を見つけ、本や人と出会い、学者/教育者になっていく、そこで本が果たした役割の深さ、出会いの妙など、興味深くうかがい、大変有意義なランチタイムとなりました。



### 《新コーナー紹介》 震災・防災資料コーナー

震災・防災に関する資料を集めた「震災・防災資料コーナー」を設置しました。絵本コーナーの向かいにあります。必要な資料に目を通して、防災力を高めてください。



### 新しく入った資料の紹介

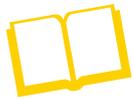
エントランス脇に設置してあるipadに新しいコンテンツが入りました。折り紙のコンテンツもあります。ぜひ、ご活用ください。



### 《新コーナー紹介》 教育実習・就職活動応援コーナー

実習や就活に関する資料を集めた「教育実習・就職活動 応援コーナー」をエントランス脇に設置しました。マナーの本や、お礼状を書くための手紙の書き方の本、教育実習に関する本など色々揃えています。また、教育実習関係の資料のリストも揃えています。全て、借りることができます。ぜひ、ご活用ください。





## グリーンカーテンを設置しました。

図書館南面にグリーンカーテンを設置しました。盛夏に2階閲覧室の日差しを遮り、室温の上昇を少しでも抑えられないかと考えています。

設置場所は、図書館南側(7号館の向かい側)のアジサイが咲いている辺りです。土壌があまり良くないということで、保水性の良いコンテナを使用しています。

朝顔のほか、ゴーヤやキュウリなど実のなる植物も植えてあります。実った暁には、ご自由にお持ちください。土壌が乾いているのを見かけたら、適宜、水やりもお願いしま〜す。



## 歴史のなかの教科書 ～技術科～

附属図書館の夏の恒例企画、歴史のなかの教科書展を開催します!!!

**平成24年度特別展示企画**  
『歴史のなかの教科書～技術科～』

場所：附属図書館1F展示ホール  
時間：10:00-16:30

宮城教育大学附属図書館の名物資料の一つに教科書があります。明治どころか江戸時代の教材も保存しているのが特長です。中でも、日本のもの作りの原動力になった技術科の教科書を、明治から最近のものまで特別に展示します。教育の歴史を背景としながら、教科書がどのように変化して行ったかが分かります。皆さんの両親や御先祖が勉強したかもしれない教科書を見ることができたり、皆さんが使った教科書と再会できたりするかもしれません。

教科書のほか工具など技術科の道具も展示中です。会場となっている展示コーナーには休むスペース、リフレッシュコーナーもあります。図書館の見学もできるので、ぜひ遊びに来て下さい!



## 本を10冊1ヶ月間借りることができます!

平成24年4月から学生の皆さんの貸出冊数が10冊に、貸出期間が1ヶ月になりました。

仙台市の図書館や、他の大学の図書館と比べてもかなり多い冊数を長い期間借りる事ができます。宮教大生の特権!この機会により多くの本に親しんで、教養を磨きましょう!

※研究生、科目等履修生、特別聴講学生の皆さんは、5冊まで2週間です。



第17回

My Favorite Books

# 学生の読書室

私が選ぶ  
この一冊



## 『シラノ・ド・ベルジュラック』

エドモン・ロスタン著、渡辺守章訳、光文社古典新訳文庫、  
2008年11月20日発行、ISBN: 9784334751715



教育学部中等教育教員養成課程  
社会科教育専攻

岡田 駿

今回自分が紹介したいのは光文社古典新訳文庫から出版されているエドモン・ロスタン著、渡辺守章訳の『シラノ・ド・ベルジュラック』である。これは17世紀のフランスに実在した剣豪であり詩人であり、軍人であったシラノを主人公にした戯曲作品である。よって内容は戯曲形式でテンポがよく、かなり読みやすくなっている。物語のあらすじは、シラノは多才な人物で豪快であり優しい剣士であったが、その醜い大鼻のせいでその容姿は決して良いものとはいえなかった。そんな彼は従妹であるロクサーヌに思いを寄せていたが自分の容姿では見向きもされないといい、同じくロクサーヌに恋する美男であるクリスチャンのために愛の台詞を考えたりなどと奔走するという物語である。シラノの訳文は他にも多く出ているがこの出版社の本を推す理由は、その読みやすい文体はもちろん、ロマン派における『格好の良い』詩的表現を上手く訳していると思うからである。特に最後のシラノの台詞である「Mon panache!」の訳し方はとても秀逸であると思う。気になった方はぜひ読んでいただきたい。



## 『雪の日』

樋口一葉著、『樋口一葉集』所収、岩波書店、  
2001年10月発行、ISBN: 400240224X



特別聴講生  
(中華人民共和国・東北師範大学からの交換留学生)

張 小立

現在、日本の五千円の紙幣に採用されているのは樋口一葉の肖像です。近代以降の最初の職業女流作家として、たくさんのすばらしい作品を残しましたが、生涯の後半はずっと貧乏に悩まされて、生活は非常に苦しかったのです。

一葉の作品の中で、もっとも知られているのはたぶん『たけくらべ』と『にごりえ』でしょう。しかし、私の一番気に入っている小説は『雪の日』です。主人公の薄井珠は山里の村に生まれ、幼い頃両親を失い、伯母のもとで大切に育てられました。彼女は東京からきた桂木一郎先生を慕っていましたが、伯母から反対されました。ある雪の降る日、桂木への慕情に動かされて、伯母も故郷もふりすてて出奔しました。今、東京で桂木の妻になっている珠は雪の降る景色を見ながら、深い後悔をしているのです。

この小説は半井桃水と別れた後書いたもので、一葉作品の中での唯一の第一人称小説です。恋の喜びと決別後の悲しみはこの小説を一葉作風の分岐点としました。

樋口一葉に興味がある方、ぜひこの『雪の日』を読んでみてください。

# 原稿大募集

「こもれび:宮城教育大学附属図書館ニュース」は皆さんの投稿で成り立っています!特に「学生の読書室」は学生の皆さんのお薦めの本を紹介してもらおうコーナーです。是非読後の感想や想いをこの場で表現してみましょう!みなさんからの投稿をお待ちしています。下記の必要事項を記入の上、いずれかの提出方法をお選びください。

必要事項

- 専攻、学年、お名前、連絡先
- 紹介したい本のタイトルとその著者名、出版社
- 紹介文(400字程度)

提出方法

- 次のメールに提出してください。  
toshokan@staff.miyakyo-u.ac.jp

注意事項

- こもれび次号は3月発行です。 原稿は、こもれび編集委員会で選定の上、掲載します。
- 採用された原稿は図書館ホームページにも掲載されます。



## 『グスコブドリの伝記』

[ 宮沢賢治著、くもん出版、1993年発行、ISBN: 4875767102など ]

宮城教育大学大学院教育学研究科  
教科教育専攻社会科教育専修

藤原 進士



孤児として育った少年ブドリは、勉学に励み大学へ進学し、最終的に火山活動の制御を行う火山局へ勤めるようになります。しかし、ブドリが暮らす場所に冷害が襲い、食べ物がとれなくなり多くの人たちが困難な生活を強いられるようになってしまいます。そこでブドリは火山を噴火させることで気候を暖めようと試み、火山の近くにある火山局に、噴火するまで残り作業を続けます。その結果、気候が戻り多くの人たちが幸せな生活を送ることができるようになりました。

ブドリの自己犠牲的な態度というものは、その他多くの宮沢賢治の童話・詩に見られます。「銀河鉄道の夜」、「雨二モマケズ」などもそうですね。彼が当時生きた時代、岩手県という地域なども背景に作品を楽しんで欲しいです。

最後に、私はまわし者ではありませんが、「グスコブドリの伝記」は今夏映画化されるようです。興味のある方はそちらも鑑賞されてはいかがでしょうか。



## 『今日もていねいに。』

[ 松浦弥太郎著、PHP研究所、  
2008年12月発行、ISBN: 9784569704739 ]

大学院教育学研究科  
教科教育専攻国語教育専修1年

李 瀟麗(中国)



弱い自分、未熟で足りないところもある自分、できていたことさえもできなくなってしまった自分、孤独と恐怖を抱いている自分、認められず悲しくなる自分、涙腺がゆるゆるしてしまう自分、やりたいことも分からず悩む自分…

ある日、こんな自分が、ある本と出会った。それは、世界に一つしかない、まるで自分への手紙かプレゼントのような本。

うるうる、にこにこ、ジンとくる、ホッとする…。この本は魔法にあふれていて、読んでいるうちに、「こんな自分こそ、生きていく証拠」ということが分かり、一気に胸がすっとした。

このような自分を受け入れ、「いつも、笑顔で、正直に、親切に、を心がけること」、「他人を思いやり、素直さを忘れず、ベストを尽くすこと」、「困難やトラブルこそお互いが知りあえるチャンスであること」、「孤独と恐怖心を愛してあげること」、「大切なもの、愛するもの、慈しむものを一日一回触ってあげること」をモットーに、私は、わくわく、ドキドキ、新しい一日を楽しんでいる。

さあ、「あなた一人のために作りました」というこの本と一緒に出発しましょう。

# 私と本

Me and Book

先生・職員の方々の本との付き合い方をご紹介します



教育復興支援センター  
特任教授

伊藤 芳郎

3月11日の東日本大震災後、崩れかけた本箱から飛び出していた本の中から、大学時代に読んだ懐かしい本を見つけた。手に取ってみてその一文にハッとさせられた。

「公害の被害者と語るときしばしば問われるものは、現在の科学技術に対する不信であり、憎悪である。衛生工学の研究者としてこの問いをうけるたびにわれわれが学んできた科学技術が、企業側からは生産と利潤のためのものであり、学生にとっては立身出世のためのものにすぎないことを痛感した。」宇井純「公害原論I」の『開講の言葉』より

「たとい論講がどれ程緻密であっても、見当を—又性格を—逸しているならば、そこに取り扱われた問題は批判されたことにはならない。方法

## 二人のジュン

的理解のみ学問の性格を明らかにしその批判を可能ならしめる。」戸坂潤「科学方法論」の『方法概念の分析』より

宇井純と戸坂潤という二人のジュンに出会ったのは、大学での民法と近代日本倫理思想史の講座であった。二人の確固たる信念の基に貫き通した生き様、現場からの視点と批判的な見方に、大きな衝撃を受けたことを思い出した。

今、改めて大震災と原発対応に思いめぐらす中、宇井の行動力と戸坂の批判的見方が現在の状況を切り拓く視点として、今でもキラリと光っていると思わざるをえない。と同時に、学問の普遍性と大学の役割が心から離れないのである。



附属図書館  
学術情報課学術情報管理係

高橋由紀江

大学を卒業してまだ数ヶ月という新米の私ですが、大学時代を思い返してみると大学の図書館で本を借りたことがほとんどないということに気がきました。私にとって、大学の図書館はレポートや卒業論文作成のための参考資料を借りる場所、勉強用の本がある場所、という考えが強かったからだと思います。もともと読書は好きだったので、本を読みたい時はもっぱら市の図書館などに通っては館内をふらふら歩き回り、気になった本を借りていくというスタイルでした。

大学の図書館職員として働き始めて本の発注や受け入れを担当するようになると、毎日多くの本と出会えるようになりました。パッと見て「読んでみたい!」と思う本もあれば、なんだか小難し

## 本との出会い方

そうなタイトルだと思って開いてみると気になる内容に目を引かれることもあります。これらの出会いは図書館の職員ならではとも言えますが、突き詰めると“本を開く”という行動がもたらしているものではないかと思います。大学時代の私は興味がある本以外を手取ることはなかったので限定された出会いしかありませんでしたが、市の図書館とは違った蔵書を持つ大学の図書館で“本を開く”ことで、思いがけず読みたくなる本に出会うという機会もあったことでしょう。そう思うと惜しいことをした気分ですが、喰わず嫌いをせずに様々なジャンルの本を開いてみることのおもしろさを知った今、大学時代に出会えなかった本との出会いに期待しています。

あまり本を読まない私です。このような姿勢は、教員にとってふさわしくないのですが、読もうと努力しても長続きしません。従って、情報収集は多岐に渡ります。聴く、視る、読む等の複合的手段をフル活用しているのが現実です。読む際の多くは、必要読みになります。それだけに、たくさん、そして確かな必要を持つことに努めています。ですから、本の冊数はこなしていても、開かれないページもたくさんあります。

本の内容とは直接関係ありませんが、過去の芥川賞作家(著書:ひとり日和)に青山七恵さんがいます。彼女のエッセイだったと思いますが、

## 読み方いろいろ

その中にこんなことがありました。彼女は、旅行代理店に勤める傍ら小説を書いていた。彼女が仕事に行き詰ると「いいの、私には小説があるから」と、そして小説を書くことに行き詰ると「いいの、私には仕事があるから」と自分に言い聞かせ、精神的バランスをとっていたそうです。意を得たりで、お陰で私も仕事と趣味(水彩画)の間を行ったり来たりで、結構落ち込まずに今日までやってきました。やがては、どちらかが先なくなってしまうのでしょうか…。これも、必要から得た情報なのです。



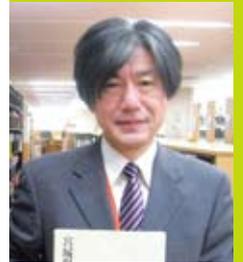
教育復興支援センター  
特任教授

吉田 利弘

休みの日に自転車で20分ほどの仙台駅前の本屋に行く。コーナー別のフロアがあり、その時の気分でフロアを選ぶ。2~3時間はいて、書棚のあちら、こちらで本を開く。だいたい、2~3冊購入する。さて、私にとっての本は、知識と行動への意欲の素、また、感動の素である。最近、名作をCDの朗読で聞いたが、あまりにもすんなり入りすぎて、物足りない。やはり、手元の本で活字を追わないと感動は起きてこない。ところで、15年ほど前までは、読書はあまり楽しいと感じなかった。それは「本を読まなくては」と言う、義務感。さらに、本は最初から読まなければならない、全部読まなければという縛りが心にあったか

## 私流・本とのつきあい方

らだ。しかし、本とのつき合い方を変えてから読書が好きになった。それは、本は無理に最初から読まない。読みやすそうなページ、気に入った写真や挿し絵のページから読むこともいい。飽きたら読まない。全部読まなくて、また、わずかしか読まなくても、それでよいことにして「いずれ読むこともあるかも」と本箱の奥にしまう。要は「本に縛られず、自分の要、不要や気分で本を読む」という「本のおいしいところだけ」という気楽さが本を身近に、読書を楽しむ方法だと思う。



キャリアサポートセンター  
特任教授

山田 恵嗣

平成8年度に東北大学職員になって以来、耐えがたきを耐え、忍びがたきを忍び、法人化前は日本国の、法人化後は東北大学の発展と栄光に微力を尽くしてきたつもりです。同大学の国際文化研究科、工学研究科、歯学研究科と部局を転々とし、平成16年8月には経済産業省の出先機関に出向、その後、東北大学本部、電気通信研究所と歩んで参りましたが、この4月晴れて宮城教育大学の職員になりました。広く会議を興し万機公論に決すべし、の精神でやっていく所存ですので、今後ともどうぞよろしく願っています。

さて、今だからこそ明かす私が大学職員になった一番の理由ですが、大学職員になると大学図書館を大学時代と同じように利用できるということ、それに尽きます。面接官の皆さんすみ

## 本と図書館と事務職員の私と

ません(笑)。東北大学には学内の他キャンパス図書館(室)から資料を取り寄せ、自分の所属するキャンパスの図書館(室)で図書を受け取れる学内配送サービスというものがあります。当サービスは先生方や学生さんの教育研究や学習の便宜を図るために導入されましたが、僭越ながら大いに利用させて頂きました。当時の部局の図書館職員によると私以上に当サービスを利用した事務職員はいないとのこと。最近では仕事第一主義で図書館の利用はトーンダウンしていますが、仕事に慣れたらまた利用しようと思っております。また、将来的には図書館関係の業務もしてみたいと思っていますので人事担当の方よろしく願っています。この場をお借りしてお願い申し上げます(爆)。



研究・連携推進課  
研究協力係長

加藤 文樹



Inside story

宮教図書館ではいったいどのような業務が行われているのでしょうか？ その一部をつぶやきます！

## 第1話 カウンターの裏で…

カウンター担当：I



カウンターに座ってる姿をあまり見ませんが、普段はどんな仕事を？



本の準備担当：A

事務室に引きこもって、「目録」という仕事をしています。目録は、タイトルや著者、出版年などを本から探して、わかりやすい情報としてまとめる「書誌」を作るのです。こんな風にラベルを貼ったり等の作業も！



「書誌」の中身

本を貸出の準備！

カウンター担当：I



あ！書誌は私たちが普段、本の検索(OPAC)をするときに出てくるものですね！中には細かい内容のものもあります…。業務に関係する職業病はあったりしますか？



本の準備担当：A

資料番号などの少し長い数字を覚えておくのに「～4649(ヨロシク)」という風にゴロ合わせするようになっていました…日常的にも

カウンター担当：I



暴走族みたいですね(笑)。担当業務に活かせる特技は何かありますか？



本の準備担当：A

文章のあら探しが得意なので、本の情報(書誌)で間違いをみるときに役立っていると思います！

カウンター担当：I



何か急にイキイキ…実は、仕事をしているふりして本を読み漁っているのでは…



本の準備担当：A

ギクッ!さすがにないですよ!ここは児童書などが多くて個人的にとっても魅力的なのですが…ただ、必要もないのに何度も本を手にとったりはしています

カウンター担当：I



本の準備担当：A

そ、そういう! Iさんの主な担当業務は何ですか？

カウンター担当：I



カウンター以外に、皆さんからの申し込みに応じて他の図書館から論文のコピーや本を取り寄せる、ILL という業務をしています。



本の準備担当：A

へえ、ILLって言うんですね。難しいところは？

カウンター担当：I



フランス語など読めない論文取寄せの申込があるとドキドキします…



本の準備担当：A

それは緊張する!珍要求などに会ったことはありましたか？

カウンター担当：I



国会図書館から本を取り寄せると、既についている汚れなどのメモが同封されるんです。傷つけるなよ!というプレッシャーが…



本の準備担当：A

ゴクリ…。やはりコピーなどもプロならではの扱い方があるんでしょうか

カウンター担当：I



他の図書館から届いたコピーを見たとき、普通にやるとサイズにより端が黒くなるのですが、それがなく、きれいにコピーされると、プロだな!と思います



本の準備担当：A

スゴイ! 業務でよく使うアイテムはありますか？

カウンター担当：I



指サックです!論文のコピーは1枚〇円、とお金に関わるので取寄せた論文の枚数の確認は絶対です!



本の準備担当：A

高速でカウントできそ…おおっ!



本の準備担当：A

63枚の紙をカウントするのに Aさんは1分35秒、 Iさんは25秒でした!



本の準備担当：A

学外からの資料取寄って意外と簡単ですよ。必要な論文・本があればマイライブラリからぜひ申込みを!

## 本学教員等著作 寄贈図書一覧

(平成23年4月～平成24年3月受贈分)

木下 ひさし [国語教育講座]

読み合う教室へ:文学の「読み」の授業  
木下ひさし著 百合出版 2004年

国語科発問づくりの基礎基本

(小学校若手教師の授業サポート:No.1)

木下ひさし編著 明治図書出版 2009年

国語教室宣言:ことばが育つ授業のアイデア

ことばと教育の会編

共編著者:木下ひさし 国土社 1995年

箱田 恵子 [社会科教育講座]

外交官の誕生:近代中国の対外態勢の変容と在外公館

箱田恵子著 名古屋大学出版会 2012年

川崎 惣一 [社会科教育講座]

自己(哲学への誘い:新しい形を求めて:5)

松永澄夫、浅田淳一編 共編者:川崎惣一

東信堂 2010年

降矢 美彌子 [音楽教育講座]

地球音楽の喜びをあなたへ:未来の地球市民となる

子どもたちのための多文化音楽教育

降矢美彌子著 現代図書 2009年

黒川 修行 [保健体育講座]

子どもの命は守られたのか:

東日本大震災と学校防災の教訓

数見隆生編著

共編者:黒川修行 かもがわ出版 2011年

中屋 紀子 [家庭科教育講座]

家庭科の授業をつくる:

授業技術と基礎知識 小学校編

柳昌子、中屋紀子編著 学術図書出版社 2009年

渡邊 徹 [特別支援教育講座]

教育の不易と流行:教育は人なり:

宮城教弘塾 in 仙台 第3集(宮城教弘塾)

菊池公夫編 共編者:渡邊徹 日本教育公務員

弘済会支部宮城県教育公務員弘済会 2010年

菅井 裕行 [特別支援教育講座]

重症児者の防災ハンドブック:

3.11を生きぬいた重い障がいのある子どもたち

田中総一郎、菅井裕行、武山裕一編著

クリエイツかもがわ 2012年

吉村 敏之 [教職大学院]

学びを喚起する授業をめざして 第1号・第2号

加賀市立片山津中学校、加賀市立橋立中学校[編]

共執筆:吉村敏之

加賀市立片山津中学校、橋立中学校 2008年

## 図書館 Topics



図書館通用口のスロープ脇の花壇には、四つ葉のクローバーが多い!というウワサ。ぜひ、探してみてください。

本誌の内容や本学の広報に関するご意見・ご要望をお寄せください。



宮城教育大学附属図書館

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149

TEL:022-214-3350

E-mail:toshokan@staff.miyakyo-u.ac.jp

こもれび No.122

平成24年7月20日発行

附属図書館オフィシャルサイト

http://library.miyakyo-u.ac.jp/

編集委員

図書館運営委員:堀田幸義 高橋亜紀子

図書館職員:吉植庄栄



このパンフレットは環境に配慮した「本なし印刷」に印刷されています。



環境にやさしい植物性インク「VEGETABLE OIL INK」で印刷されています。